遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 19 年 (2007)

平成19年 春の大祭号（78号）
http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/

主な目次

昭和天皇の御聖徳を仰いで……2頁
春の大祭案内……3頁
杜の話題……5頁
大宮の杜　春から夏へ……7頁
どんぐり通信……8頁
初宮詣芳名……9頁

「第四回　大宮八幡宮の杜 薪能」（五月十九日）

昭和天皇の御聖徳を仰いで

宮司　鎌田紀彦

今年も神門の側で満開のこぶしの花に競うように桜の花が綻び始めました。毎年東京の開花宣言より二～三日早く咲くのです。

さて平成十七年に国民の祝日に関する法律が改正され、足かけ六十四年に亘り親しまれて来ました昭和時代の天長節（天皇誕生日の四月二十九日）が今年より国民念願の「みどりの日」から「昭和の日」へと改称されました。当宮でも、この機に合わせて昭和祭を斎行することとなりました。

昭和の日の制定意義にも「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす。」とありますように昭和天皇御在位の大半は敗戦・占領・復興と将に激動の時代に国民の象徴として一身に担われ、国民を激励し勇気づけられた御聖徳は後世に語り継いで行かねばなりません。その御聖徳をお慕い申し上げている中でも特に神前で祭典の時に奉奏させて頂いております神楽浦安の舞の歌詞は昭和天皇の御製

あめつちの神にぞ祈る朝なぎの
海のごとくに波たたぬ世を

であり、常に世界の平和を望まれ神々にご祈念遊ばされている大御心が拝察できるのでございます。

昭和十年前後には、平和祈願の御製を数多くお詠みになってなっておられますが、御心とは裏腹に国際情勢は必ずしも好転せず、我が国は米英両国と最悪の状態となり、ついに大東亜戦争のやむなきに至ります。その時の御前会議でも、御祖父明治天皇の御製

よもの海みなはらからと思ふ世に
など波風のたちさわぐらむ

を毎日拝誦していると仰せになり、最後まで開戦反対の御心をお示しになって居られるのです。

しかしながら苦渋の選択の開戦となり、爾来四年を経た昭和二十年、戦局は益々悪化の一途をたどり、沖縄戦の敗北、東京大空襲、各都市も空襲され、ドイツの降伏、続く広島・長崎に原子爆弾が投下され、ソ連が参戦して、八月九日の御前会議ではポツダム宣言受諾派と本土決戦派が激しく対立することになります。その結果御聖断を仰いでポツダム宣言を受諾することとなり、八月十四日の午後再度地下壕での御前会議でも『**自分のことはどうなっても構わない。堪え難きこと忍び難きことであるが、この戦争を止める決心をした次第である**』と国民の生命の救出と日本民族の存亡を掛けて決断されたと承っております。

そうして日本の子孫の為にも自分も国民と共に努力し、協力一致して将来の復興を図りたい、更に『**一般の国民には、ラジオを通じて親らさとしてもよい**』と仰せになり、ついに御聖断が下され、十五日の堪え難きに堪え万世の為に太平を開かむとの終戦の玉音放送となったのであります。このときの御製

爆撃にたふれゆく民の上をおもひ
いくさとめけり身はいかならむとも

にも、まことに慈悲深い愛民の大御心が拝察されます。

やがて進駐軍・連合国総司令部（GHQ）の総司令官マッカーサー元帥に依る日本弱体化の占領政策が次々と実行されて行くのでありますが、そんな中にモーニング・トップハットの礼装姿の天皇陛下と開襟シャツにノーネクタイのマッカーサー元帥の有名な会見エピソードがあります。そのことは後に発表されたマッカーサー回想記に「天皇は謂ゆる命乞に来ると思っていたが、天皇の口から出たのは次の様な言葉だった。『**私は、国民が戦争遂行にあたって、政治、軍事両面で行った全ての決定と行動に対する、全責任を負うものとして、私自身をあなたの代表する諸国の裁決にゆだねるためにおたずねした**』私は、大きな感動にゆすぶられた。死を伴うほどの責任、それも私の知り尽くしている諸事実に照らして、明らかに天皇に帰すべきではない責任を引き受けようとする、この勇気に満ちた態度は、私の骨の髄までも揺り動かした。私はその瞬間、私の前にいる天皇が、個人の資格においても、日本の最上の紳士である事を感じ取ったのである」と御聖徳に感動して、すぐさま天皇ファンと成った様子が綴られています。このエピソードは天皇陛下ご自身は「約束したことだから」と一切お話になられなかったのであります。天皇陛下ご自身の身を捨て国を救おうとされた無私なる大御心が敵将をして感動させたという事実は、私共日本国民の誇りでもございます。

次いで昭和二十一年元旦に渙発されたのが最後の詔書（以後おことば）となりました「新日本建設に関する詔書」で、世にマスコミの造語で「人間宣言」と云われているものであります。余り知られておりませんが、この詔書の前段に於いて、米軍による民主主義の輸入もさることながら、日本には明治天皇の五箇条の御誓文に依って以前から民主主義があったことをお示しになり、その後段に於いてGHQの要求する「神格否定」が述べられているのです。

これは後に、昭和五十二年八月二十三日の記者会見でお話になったことですが、『**それが実はあの時の詔勅の一番の目的**（五箇条の御誓文のこと）**なんです。神格とかそういうことは二の問題であった。**（以下略）又、**日本の国民が日本の誇りを忘れないように、ああいう立派な明治大帝のお考えがあったことを示すために、あれを発表することを私は希望したのです**』とお述べになり、日本の国体護持を念頭に置かれての大御心とも拝察されるのでございます。

（ここでもマッカーサー元帥とのエピソードがありますが、詳しくは紙面の都合上後日に譲りたいと思います。）

あれから今日まで、六十二年が経過した現在はどうでしょうか。御在位六十余年間に亘る昭和天皇の数々の御聖徳は、風化させることなく子々孫々へと語り継がねばなりません。昭和天皇の大御心に思いを致し、日本の国に生まれて良かったと誇りに思える様な皇室を中心とする素晴らしく美しい国柄の日本にしなくてはならないと、昭和祭を初めて斎行するに当たり誓いも新たに致しているところでございます。

青葉若葉の好季節と倶に春の大祭が近づいて参りました。期間中多くのご参拝の方々をお迎えして、賑々しく奉祝行事と厳粛な祭典をご奉仕できますよう祈念致しております。

日本教文社刊／出雲井晶編著／(財)昭和聖徳記念財団監修の「昭和天皇」を参考にさせて頂きました。（十九.三.二十三記）

若葉青葉の季節に 春の大祭（つつじ祭り）

観世流大宮八幡宮の杜 新能
裏千家大宗匠奉仕 献茶式

今年も風薫る若葉青葉の季節が巡ってまいりました。当宮では5月3日より5日までの間、**春の大祭（つつじ祭）**を斎行致します。

本年より祝日法の改正に伴い、昭和天皇の御誕生日である4月29日が「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」との趣旨により「昭和の日」と制定され、当日午前十時より昭和天皇のご懿徳をお偲び申し上げ**昭和祭**が厳かに斎行されます。また「みどりの日」が5月4日となった為、**植樹祭**は4日午後2時より行われます。

春の大祭期間中は、5日の**当日祭（尚武祭）**を中心に、3日には**第一日ノ儀 子供の祭（稚児健康祈願祭）**、4日には**第二日ノ儀**と**植樹祭**の祭典が行われます。

大祭の奉祝行事は、4月29日の**弓道奉納射会**を始めとして、3日より5日までつつじ花咲く表参道での**植木市**や露店商、ご社殿前では終日様々な神賑行事が奉納され、期間中多勢の参拝の方々で賑わいます。

そして5月19日には**第四回 大宮八幡宮の杜 薪能**が、26日には**第八回 裏千家献茶式**が奉納されます。

第一日ノ儀 子供の祭 奉祝 稚児行列

3日午後1時半より**春の大祭第一日ノ儀 子供の祭（稚児健康祈願祭）**が斎行され、続いて立正佼成会杉並教会鼓笛隊を先頭に猿田彦、陣羽織姿の役員総代の供奉、お稚児さん達、ボーイスカウト・ガールスカウト、そして飛び入り参加の太鼓山車曳きの子供達など総勢四百人余の行列が、神門を出発し、当宮周辺を巡ります。

沿道からの声援、つつじの花咲き誇る参道を歩いた想い出は、ご参加のお子様方の一生の記念となることと思います。又、お稚児さんは、神々の代役を勤めることになり健やかに成長すると言われております。

第七回 若葉inおおみや

4日午前10時より社殿に於いて**春の大祭 第二日ノ儀**斎行の後、神楽殿前において第七回「**若葉inおおみや**」が公演されます。

本年は、外国人のカート&ブルース氏らによる奉納演奏、箏と尺八のデュオコンサートライブ『ゴーイングホーム』。毎年多くの参拝の方々に音の世界をお楽しみ頂き、好評を博しております。どなたでもご自由にご陪観出来ますので、是非皆様お誘い合わせの上、お越し下さい。

次いで、結婚式場清涼殿にて第七回「**挙式者の集い**」を開催。当宮にて婚礼を挙げた皆様が集い、演奏者の方と共に楽しいひとときをお過ごし頂きます。

昨年までは結婚式場清涼殿で

春の大祭（つつじ祭り） 祭典と奉納神賑行事

祭事

昭和祭	4月29日
朔旦祭並びに躑躅（つつじ）育木祭	5月1日
春の大祭第一日ノ儀 子供の祭（稚児健康祈願祭）	5月3日
春の大祭第二日ノ儀	5月4日
植樹祭（苗木授与先着二〇〇名）	5月4日
春の大祭当日祭（尚武祭）	5月5日
春の大祭終ノ奉告祭（直会の儀）	5月5日

神賑行事

弓道奉納射会	4月29日
古武道奉納演武	5月3日
子供の祭奉祝 稚児行列	5月3日
第七回 若葉inおおみや	5月4日
第七回 挙式者の集い	5月4日
杉並太鼓奉納演奏	5月4日
野点茶会（裏千家）	5月5日
方南エイサー踊り奉納	5月5日
雅太鼓奉納演奏	5月5日
奉納献燈提灯	4月29日～5月21日
みどりの会即売	4月29日～5月5日
スカウトバザー	5月3日
大宮八幡 植木市	5月3日～5月5日
盆栽展示会・即売会	5月3日～5月5日
露店	5月3日～5月5日

植樹祭 苗木授与・献木のお願い

今年は『明日へ　未来へ　北の大地の森づくり』をテーマに「全国緑化運動」が行われています。私達の暮らしは自然と共にあり、緑は私達の生活に潤いを与えてくれています。杉並区でも、この大宮地区一帯を「緑の保全を目指す地区」として緑化推進の目標を立てています。

このような状況の中、武蔵野の面影を今に留めている大宮八幡宮の鎮守の杜を、「緑の杜」に守り育てていく献木運動を進めており、今年度より春の大祭二日目の4日に、当宮みどりの会主催にて「**植樹祭**（献木式）」が執り行われます。

当日は、祭典に引き続き、各家庭にも緑を広げる運動の一翼として、ご参列の方で先着二〇〇名様に苗木をお頒け致します。つきましては、皆様方よりの献木のご協賛を賜りたく、お願い申しあげる次第でございます。

献木初穂料 一口2，000円

※一年中を通じて承っております

第四回 大宮八幡宮の杜 薪能

来たる5月19日の午後6時より、「大宮八幡宮の杜 薪能」が奉納公演されます。この催しは「杉並で能楽を楽しむ会」の主催、当宮の共催、杉並区文化協会の後援で開催されるものです（※「杉並で能楽を楽しむ会（田木千城夫会長）」は能を気楽に楽しもうと設立され、NPO（特定非営利活動法人）として活動している団体です）。

夕刻、和琴の調べにのせ能舞台上で、古式に則った火鑽（ひきり）神事が斎行され、そのご神火によって「火入れ式」が行われます。辺りに夜の帳が下り始め、ご神火の篝火が燃えさかり、舞台縁に並べられた竹燈にも火が灯され、ライトアップされた新緑の森の幻想的な雰囲気の中、毎年元旦に神能「翁」の舞を奉奏されている能楽師野村四郎氏率いる観世流の演者らにより、先ず舞囃子「熊坂」舞われ、次いで狂言「蝸牛」、続いて能「三輪」が演じられます。

なお、入場には陪観券が必要となります。当宮社務所でも扱っております。ご希望の方はお早めにお求め下さい。

第八回 裏千家献茶式

当宮の献茶式は、平成11年5月15日に「天皇陛下ご即位十年」を奉祝し、茶道裏千家今日庵 擔泉齋伊住宗晃宗匠によるご奉仕で執り行われました。これは杉並区内では初めてのことでした。そして平成13年からは、毎年の献茶式に併せて奉賛添釜茶会が裏千家淡交会東京第7東・西支部、東京第6東・西支部の四支部の交互担当により開催されることとなりました。

今年は、5月26日午前10時より第八回 裏千家献茶式を、茶道裏千家今日庵 鵬雲斎千玄室大宗匠（先代15代家元）にご奉仕戴きます。淡交会東京第六東支部の担当主催による奉賛添釜茶会も併せて開催され、境内は和服姿の方々で終日賑わいます。

また当宮付属の大宮幼稚園においても、幼稚園茶席が開設され、園児らが緊張しつつも可愛らしいお手前を披露致します。

第四回 大宮八幡宮の杜 薪能　5月19日

第八回 裏千家 献茶式　5月26日

春の大祭後の主な行事

御嶽榛名神社例祭	5月16日
第28回大宮さつき展	5月下旬～6月上旬
夏越の大祓	6月30日
第9回乞巧奠飾り	7月1日～7月15日
雅楽の夕べ	7月8日・7月15日
第7回納涼大宮天神祭り	
書画行燈掲出	7月25日
時間をはずした日の祭事	
多摩清水社例祭（水神祭）	8月1日
第24回 戦歿者慰霊祭	8月15日
第9回菊被綿飾り	9月9日～9月17日

毎月1日　朔旦祭
毎月15日　月次祭（どなたでもご自由にご参列出来ます。）

毎月最終の土曜日又は日曜日
大宮八幡宮フリーマーケット
杉能会バザー

毎月・お朔日（ついたちまい）参りを　致しましょう

杜の話題

平成十九年丁亥 新春のご社頭

元旦の午前零時、宮司の打ち鳴らす初太鼓が新年の訪れを知らせます。同時にご社殿正面の神門が開き、終日まで続く初詣が始まりました。

太鼓が鳴り終わりますと、観世流能楽師の野村四郎氏に依ります新春を言祝ぐ神能「翁」が朗々と奉奏され、次いで、新春厄除開運大祈祷祭が始まりました。これは、宮司が奉仕する一年の一番最初の特別祈祷で、初詣の期間中執り行われる新春初祈祷の一番初めのご祈祷祭です。

神門前は大晦日の晩から多数の参拝者が新春の開門を待ち、午前零時の開門時より陸続と初詣の列が表参道を埋め尽くし、終日大変な賑わいとなりました。

新春除魔神事 蟇目の儀・大的式

大的式は小笠原流の重要な儀式であります。修行を重ね、それにより選ばれた者がその技をもって、ご神前や多くの人々の前で、弓矢の徳威に依り、天下の邪悪を祓い清める神事として行われます。従ってこの儀式の中には、天下泰平・国家安穏・家内繁昌などを祈念する心を示す動作が入っております。その意味でも、年の始めや神事の始めなどに執り行われます。

まず、大的式に先立ち**蟇目の儀**が行われました。蟇目とは矢の先につけた蟇目鏑矢のことで、木を挽いて削りその形が蟇蛙に似たところから蟇目と云われています。射ると風を切り、「ヒュー」と云う音を発します、その音によって魔性を退散させるのです。本年も小笠原流第31世家元小笠原清忠氏が奉仕されました。続いて大的式が執り行われ、約40m離れた大的に交互に矢を射ます。見事小眼を射抜くと陪観者からは拍手がわき起こりました。昨年の秋の大祭より奉納戴いております、木馬を使っての「騎射の形」の奉納も併せて行われました。

どんど焼き神事

小正月の1月15日にご神前で「月次祭並び古神矢・古神札等焼納奉告祭」を執り行い、次いで社殿前広場の特設斎場で古神矢・古神札等焼納祭（どんど焼き）が盛大に斎行されました。

初詣の参拝者の方々が納められた古い矢や御神札・御守・注連縄等をうず高く積み上げ、そこを斎場とし、祝詞を奏上し、玉串を奉り拝礼したあと、火鑽神事が行われました。これは轆轤鑽を使って古代そのままに火を熾こす神事で、このご神火を用いてうず高く積み上げられた古神札に点火されます。古来より、この炎にあたると無病息災・健康になると信じられており、燃え盛るご神火の前で神職等が大祓詞を奏上し、一年間の感謝と除災を祈り上げました。

またこの日は、大宮八幡宮敬神婦人会（りんどう会）の初奉仕活動として、「大宮八幡厄除ぜんざい」が振舞われました。このぜんざいは丹波篠山産の大納言小豆と糯米を使用したもの。当宮宮司の郷里、丹波篠山澤田八幡神社の山田國弘役員が餅を奉納。鎌田会長始め役員等によって前日より小豆を炊き準備し、出来立てのぜんざいが当日の神事にご参拝の皆様に振る舞われ各々舌鼓を打っておられました。

文化財防火デー消防演習

文化財防火デーは戦後の法隆寺金堂壁画の消失の教訓から1月26日に設けられた日です。当宮では毎年、この日に恒例の消防演習を行っております。演習は、当宮自衛消防隊と杉並消防署並びに杉並消防団のご協力によって実施されました。

当日は社殿床下より出火したとの想定で、出火と同時に消防署へ通報、各部門への連絡、参拝者や大宮幼稚園の園児等の避難誘導、また駆けつけた職員等の消火器などによる初期消火が行われ、到着した杉並消防署消防隊・杉並消防団第二分団・当宮自衛消防隊の社殿への一斉放水に依って鎮火しました。

演習終了後は参加された地元町会の方々や職員等による水消火器を使った初期消火訓練が消防署員の指導で行われました。また、幼稚園の園庭では園児等がはしご車の実演を見学しました。

第二十六回 伊勢参宮旅行

26回を数える新春恒例の伊勢参宮旅行。今回は尾張・三河路巡りとして、1月28日より30日にかけて2泊3日の日程で氏子崇敬者の皆様方38名が参加されました。

先ず一日目は、早朝社殿にて旅行安全を祈願し、一路バスにて伊勢の地へ。外宮にて御垣内参拝の後、

鳥羽池の浦にて宿泊。続く二日目は内宮の御垣内参拝・太々神楽を奉納。おかげ横町を散策し、「お伊勢参らばお多度もかけよ、お多度かけねば片参り」とも詠われる多度大社、次いで全国約三千の天王社の総本社である津島神社を参拝。最終日は、八丁味噌の郷・史料館を見学。久能山麓の石垣いちご狩りを堪能し、定刻通り無事帰着致しました。

古式に基づく追儺神事

2月3日は節分。この日を境に厳しい寒さの中にも春の息吹きが感じられる季節となります。この季節の節目に皆様の開運と身体健勝を大神様にご祈念申し上げる**節分祭**が執り行われました。古式に則り桃の弓・葦の矢にて「天・地・人」を射る**追儺神事**が行われ、続いて社殿前にて邪気を祓う**豆撒き神事**が執り行われました。大宮幼稚園ではこの日の為、鬼の面や被りものを作り、鬼に扮した園児らが両手を広げ、豆を受けておりました。

大宮稲荷 初午大祭

二月の初めての午の日に、稲荷大神が京都は伏見の峰に天下りなさったご由緒から、この日には全国各稲荷社で初午祭が斎行されます。当宮でも境内社の大宮稲荷神社のご神前で5日午後1時より初午祭が執り行われました。

真新しい百数十本の朱色の初午幟の翻る稲荷神社に、幟奉納者等崇敬者ご参列のもと厳かに祭典が斎行され、五穀豊穣を始めとして、家内安全や商売繁盛を祈念致しました。

第五十五回 五友会記念例会

女浮世絵師みはしまり女史を始め各界の名士多士済々・異業種の集い、五友会（会長山崎眞元海将・名誉会長中村清元会計検査院長）の第55回記念例会が2月9日当宮で開催されました。この会は、新しい**友**・親しい**友**・信じ合える**友**・真の**友**・心の**友**の五つの友の文字から「五友会」と名が付けられています。

会員約40名参加、先ず神前で会の繁栄と会員のご健勝とご多幸を祈念して、宮司奉仕のもと祭典が執り行われ、続く新春の集いでは、尺八と箏三弦の演奏。「丁亥の年を干支で観る」ミニ講演、家宝の掛け軸鑑定などの余興もあり、和やかな一時をお過ごし頂きました。

紀元祭並橿原神宮遙拝

日本の建国の日は、日本書紀によれば辛酉（かのとゆう）の年（B.C.660）の正月朔日（今の太陽暦に直すと2月11日）に神武天皇が大和国の橿原の宮に於いて、我が国初代の天皇の御位にお就きになりましたことから、この日が日本の建国記念の日として制定されました。

当日の**紀元祭**では、大和国橿原宮に神武天皇即位以来、万世一系の天皇（今上陛下は第一二五代目）によってしろしめされる我が国の二六六七年目のその上を偲び国運の隆昌と世界の平和をご祈念申し上げ、引続き神門前参道広場を斎場に**橿原神宮を遙拝**、全員で「紀元節」の歌を声高らかに奉唱。

その後清涼殿にて、一同聖寿を万歳し、賑々しく祝宴が開かれ、建国の記念の佳き日をお祝い致しました。

第二十三回 梅・木瓜（ぼけ）盆栽展

毎年立春過ぎ、境内の梅の花が綻び始めた頃、大宮八幡宮梅の会の主催により、第23回「梅・木瓜盆栽展」が2月3日より3月下旬まで開催されました。先に梅の盆栽が開花し、境内の梅と併せて満開に、続いて木瓜の花も咲き揃い、芳しい香りが参拝者の心を和ませておりました。

大宮八幡 桜まつり

お花見シーズン、大宮八幡宮を中心とする和田堀公園（旧境内）一帯は数千本の桜が妍を競い、まさに桜一色となります。今年の桜の開花に合わせ3月21日から4月8日まで桜まつりを開催。この間の土・日・祝日には、夜間参拝（午後8時まで開門）を実施致しました。また、31日午後6時より「夜桜の神遊び」として、雅楽と神楽舞の演奏が行われました。ライトアップされた桜に篝火の炎揺らめく幻想的な雰囲気の中、甘酒と季節限定の桜薯蕷饅頭を味わい、風情たっぷりの夜桜をお楽しみ戴きました。

大宮八幡の杜 春から夏へ

第二十八回 大宮さつき展

杉並区後援による「大宮さつき展」が5月下旬より6月上旬までの間、当宮境内で催されます。また、期間中の日曜日の午前10時より正午までの間、好評のさつきの会々員による「さつき相談会」が開かれます。

このさつき展は「杉並大宮さつきの会」主催によるもので今年で28回を数えますが、とくに平成12年度より杉並区の後援を頂き、まさに区民のさつき展となりました。例年会員の皆様より百五十鉢近いさつきが出品され、丹精の込められた作品が五月晴れの中、妍を競い人々の目を楽しませます。

水無月 夏越の大祓

「大祓」は、私たちが日常生活の上で知らず知らずのうちに、犯したり触れたりした罪や穢を、祓い清める神事です。年に二回行われ、6月の大祓を「夏越の大祓」、12月の大祓を「年越の大祓」と云います。

夏越の大祓では、神職が大祓詞を宣読した後、人形（人の形に切った白紙）に各々の心身の穢れを移し、更に無病息災を祈る為に、茅を束ねた茅の輪を『水無月の夏越の祓ひする人は千歳の命延ぶといふなり』と唱えつつ、左・右・左と三回くぐります。

お預かりした人形は、お焚き上げをし、その灰を川に流して祓い清めます。

平安の雅 第九回 乞巧奠飾り

乞巧奠は元々中国の魔除けの風習で、それに牽牛織女の伝説、また川のほとりで機を織りながらお盆の先触れの神の来臨を待つという我が国の棚機つ女の伝説が一体となったものと云われています。

7月1日より15日まで清涼殿ロビーに**乞巧奠飾り**を再現。七夕の朝、天皇様が御歌を書いて供えられたのが短冊のルーツと言われる梶の葉で四囲をめぐらし、詩歌・管弦・書などの上達を祈って筆硯、雅楽器、五色の糸などが供えられます。そして日曜日の8日・15日の午後五時より「雅楽の夕べ」と題し、乞巧奠飾前にて職員の奏楽技術の向上を祈り、雅楽と神楽舞の奉奏が行われます。

尚、本年より7月7日の夕方に『七夕まつり』を開催。また、9日の朝まで神門前には笹竹が立てられ、ご参拝の皆様の願いを込めた短冊をご自由にお付け頂いております。

「書画行燈」奉納募集

天満宮は、平安時代に活躍された菅原道真公がお祀りされ、学識豊かなことから全国的に学問の神として信仰され、天神様とも称され親しまれております。

今年もまた、**第七回 納涼大宮天神祭り**を迎えるに当たり左記の要項により「書・画」の作品のご奉納を承っておりますので、皆様奮ってご応募下さい。又、ご奉納頂きました書や画は、行燈に貼って灯を点し7月25日の夕刻より大宮天神祭に献灯して、ご社殿前をお飾り致します。

実施要項

一、用紙は社務所にて無料で配付しております。
一、水彩画又は習字を、当宮指定の用紙に必ず横長に使用してご奉納（応募）下さい。
一、作品の裏面に名前を必ずお書き頂き、申込書を添えてご提出願います。（一人一点）
一、作品は返却致しません。予めご了承下さい。（9月の大宮八幡祭りにも掲出致します。）
一、締切り日は7月10日です。

水の恵みに感謝

「広き野に霊の清水のあるところ」（青畝）と詠まれている通り、多摩清水社より御神水が湧き出ております。八月朔日祭に引き続いて行われる**多摩清水社例祭**は水神様の御神徳をお慕い申し上げ、命の源である水の恵みに感謝の誠を捧げるお祭りです。

菊作り講習会

杉並大宮菊の会主催による菊作り講習会が今年も全5回にわたり当宮境内で開催されます。初心者からベテランの方まで、毎回大勢の参加者で賑わうこの講習。是非多くの方にご入会頂き、秋の菊花展にご出品を頂きますようご案内致します。

どんぐり通信

おおみやようちえん

大きくなったよパーティー

運動会で踊った「ン・パカマーチ」に合わせて堂々とホールへ入場してくる年少組の子供たち、いよいよ年少さんにとっての大舞台「大きくなったよパーティー」のスタートです。

年長組のお遊戯会・年中組の音楽会を見て、次は僕たち私たちの番だと張り切っていました。十曲の踊りの中から自分の好きな曲を選び、毎日楽しみながら練習する中で、ちょっぴり照れたり少し興奮したり、ドキドキしながらも一生懸命頑張っていました。四月に入園してから一年、泣いたり笑ったり、時にはケンカをしたりと、いろいろな事を経験し、一人一人バラバラだった子供たちが、心を一つにして踊ったり歌う姿を見て、心も体も日々成長している事を実感しました。

最後に「こんなに大きくなりました。年中さんになっても頑張ります。」と元気いっぱい挨拶する子供たちに、「素敵な仲間たちと一緒にゆっくりゆっくり大きくなってね。」と願いを込めながら、ちょっと誇らしげに退場していく姿を見送りました。

教諭　丸山 尚子

第六十二回 神宮式年遷宮 奉賛会東京都本部が設立

平成25年に斎行される第六十二回神宮式年遷宮にむけて奉賛活動を行う神宮式年遷宮奉賛会東京都本部の設立総会が去る2月26日、千代田区飯田橋の東京大神宮で執り行われました。引き続き杉並支部も結成され、目標額に向け国民総奉賛の募財活動が始まります。

また、平成25年は当宮御鎮座九五〇年にも相当致しますので、諸事情をご賢察頂き意義ある奉賛活動が推進されますよう。ご協力をお願い致します。

戌の日には 戌の日生まれの子育八幡さまで 安産祈願のご祈祷を！

ご祈願お受けの方には安産腹帯「岩田帯」を授与しております

子授祈願・初宮詣も随時お受けしております

平成19年 戌(いぬ)の日（5月～9月）

5月	6月	7月	8月	9月
4日(金)	9日(土)	3日(火)	8日(水)	1日(土)
16日(水)	21日(木)	15日(日)	20日(月)	13日(木)
28日(月)		27日(金)		25日(火)

大宮八幡祭り（秋の大祭）日程のお知らせ

本年の大宮八幡祭り（秋の大祭）は左記の日程により斎行されます。

（平成15年より敬老の日が9月第三月曜日に改正された事に伴い、当宮の祭典・行事はその前の土曜・日曜を中心に斎行する）

＊神輿神霊入・末社若宮八幡神社並白幡宮例祭は**9月14日(金)**に斎行する

＊宵宮祭は**9月15日(土)**に斎行する

＊例大祭・氏子奉幣祭（奉祝当日祭）・神輿合同宮入は**9月16日(日)**に斎行する

＊神輿神霊返は**9月17日(祝)**に斎行する

第七回 十五夜の神遊び

9月24日(休)の夕刻午後6時より、境内に並べられた孟宗竹に水を張り浮蝋燭を浮かべた竹燈籠一〇〇〇基に火が灯されたのち、第七回「**十五夜の神遊び**」（**仲秋祭**）が斎行されます。

続いて、神楽殿で雅楽と神楽舞の奉奏。その後、「月の音コンサート」として、尺八と箏三弦の奉納演奏が予定されております。

結婚式挙式者芳名（敬称略）

（平成19年11月31日～平成19年3月15日）

原田　慈・香　稲垣 浩文・知子

山中 敏男・紀子

緑豊かな都心の杜(もり)。
正統派神前式

初宮詣　宴集会

衣装・美容着付・写真・初宮饗膳（ご会食）など承ります。

清涼殿　03（3312）7515

初宮詣芳名

（平成18年11月24日～平成19年3月25日）

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

菅原珠子　立部湘太　谷口晴香　山﨑天地
大出雅子　土屋真紘　川隅里紅　勝俣菜乃花
三木まお　半田開人　松本波斗　橋本凜久
今鉾俊輔　高橋なるみ　浅岡沙也佳　矢島海璃
大河原拓馬　小林瑚々奈　佐野美咲　鈴木柊翔
井上翔太　小林大騎　岡﨑那菜　山蔦琶子
上村優介　小林洋大　生島龍明　西田泰人
中山倫　副島結実　井上広務　星野勝誠
加藤康佑　川邉隼也　岡村祐暉　清水龍芽
峯菜里亜　箱﨑啓吾　渡邊羽詩　大久保龍
飯岡真秀　高橋誠輝　高畠郁玖　宮本泰知
大澤茜　川端汰生　及川望　深野杏
高村真広　端村純　中田苑巴　中村心之輔
小原慶人　小山光希　三浦瑠乙　西村歩佳
岡田希　岩田章吾　杉山誠一　飯尾直央
永田こころ　大村真緒　神山遥香　山本夏希
能勢美月　佐藤那美　渡辺煉恩　河上創祐
尾西京花　藤澤栞　正路爽祐　高橋悠
小山達也　西岡真菜　平井結　井上藍佳
堀木晴斗　小笠原杏実　小澤威吹　富田あかり
阿部晃大　嶋田朋生　加藤朝陽　藤井祥
渡邊凛音　判治結香　戸田直樹　柳葉陽花
近藤凛佳　川村澪　久慈彪真　小作渚月
横山瑠南　大久保陽生　岩船圭佑　鳥屋原
時川莉杏　田口玲奈　田中華　在釈弗伊織
大塚愛莉　筏満佳子　木村志信　村井俊介
松木日揺里　久保友希　俵谷美羽　村上隆人
福原渉　山本拓実　東快飛　保倉義紘
玉江幸々路　鈴井裕太　水澤洸太　松田花奈
笠原大暉　小平郁実　近藤結寿　渡邊志門
小湊幸奈　山本琉惺　海野愛紗　飯田真彩
岩見治騎　切刀遼大　横津瑠威　杉山諒成
木内大暉　石渡かのん　平田里々　田中美彩穂

秋山歩　芝原航　横田耀　志村美佳
水口直子　上野楓　牧雪詩　安田理紗子
舘野雄武　柴田尊　神戸七音　長坂崇杜
喜納榮世　小椋悠世　坂本匠　岩田富生
安藤七美　岡野菜生　川越未結　根峯大俄
小川泰成　田中蔵之介　尾美琉悟　川田ゆり　前嶋和
大塚馨太　山田悠貴　鈴木琴子　古谷心乃　中村漣
山田佳穂　倉澤雪乃　吉田美登
向井大智　町田佳穂　椎名唯斗　木村亮牙
宮口諒哉　山崎響　安齋凛咲　上野滉太　鈴木結太
須賀瑛飛　小山叶夢　ゾンマー昂希　加藤里菜
佐々木珠　高山寧音　森翔太郎　木本遥大
中原雄大　山本衣良　荒川晟治　中沢和実
山崎響　小島宗汰郎　瀧口結萌　宮崎航
額田圭貴　山口真輝斗　町田梁武　若生竜典
佐久間百香　鹿野智仁　杉原健
新村奏空　明神千佳子　山時滉太郎　鈴木優人
菅明翔　三瀬暖人　川島偉巨　河田佑真
北島侑空　広瀬貫　岡田桜　畠山晴日
小野塚美優　西川友優　江口将弘　天野慧人
谷浦花怜　南雲葉月　柳橋理花　今野奏
大河原健志　小賦真海　新岡樹　渋谷崇道
大河原彩乃　岡直樹　立石燎　木村優樹
森泉雄貴　山室優奈　庄司奈都実　北山心優
小幡裕希　仲瀬俊太　田部空季　中島花
岩村尚紀　長瀬雅空　東稜人　宮﨑流維
小口星七　酒井柚衣奈　高橋空汰
吉田遥　赤堀日向　梅原優　渡邊美侑
所悠馬　小池優里　堀内美玲
松本琴音　大坪聖奈　杉江隼　杉田彩葉
千葉美空　萩原舞　山本遥花　池田有沙
難波直之　石田瑚葉　安藤舜　篠崎加奈
盛歩乃花　兼松明穂　渡邊杜蔵　小林千紘
石川英治　土井心乃　大髙詩音　藤井柚奈
高森尊　服部恵佳　丸山清成　田名網煌希
寺田美唯菜　林川真樹　大来優衣　平田栞奈
五十嵐隆太　赤星遼　長島優斗　獺口瑞歩
伊宗根うらら　今井心美　木村心優　牧野孝弘
山﨑結友　山本久藍　藤木優人　境田博晃

上遠野はな　中村華　葛西敏哉　松井翔太郎
黒米七輝　岩瀬英美莉　熊沢瑠真　諏佐凪砂
吉田来優　鈴木日向多　黄美亜　中村豪
雨宮ゆら　毛塚統哉　齊藤優一　高松壮
酒井歩果　岩本美咲　山川凌生　吉澤広樹
古川侑愛　横野日和　黒柳柊平　大石幹太　落合優斗　飯田拓也
杉山喜晏　宮川嘉彦　西川莉央　塩谷依加　中尾朱里
間渕優也　志賀政英　蛭田真成　熊谷勇星
岡本海央　林なつ海　里村哲哉　金子真彩
早川乃々子　小川友楽　橋本和佳奈　桒原史靖　本橋史悠
鎌滝杏里　奥村皓　牧野沙英　加藤紬月
糠野瑛　坂井瞭成　山田奏　成田悠起
長谷川雅人　中村翠沙　秦真絢　木村佳帆子
古橋一晟　長崎柚菜　野土真治　原羽音
佐々木美怜　東城紗心　竹市花音　内藤ちはる
屋代由暖　井上郁　新崎裕輝
舘野春穂　横町優羽　藤巻莉恩　小川真穂
田中大稀　近藤優花　早坂美律　岩舘幸紀
上村由布乃介　小柴泉実　梅内桜　根岸怜依
小玉真広　髙本那々美　齊藤ひいろ　長島理祐
石川真生　大熊峻太郎　関口知宏　桑田茉優
梅原浩志　大野喬平　貝原凌太　冨本晄玄
森脇湖奈　菊池美波　福上達稀　古川智哉
山田尚弥　日向有彩　浅野凛々　清水咲妃
山田京佳　星野真名　小松もも　中尾結香
西村にこ　漆畑南　石橋巧望　庄司涼乃
安楽大和　森いろは　小張洸二朗　斎藤雛乃
高橋悠生　山根向日葵　辻裕仁朗　前田野々花
大河原悠輝　内藤亮　勝間田望　杉本璃人
山森香奈　竹田勇樹　浅田啓将　前田璃花
谷垣友実子　宮地玲奈　清水朝康　舟橋真央
小野魁也　三坂豪　西山理樹　川畑文佳
上東佑羽　加藤友香　長谷川陸朗　板垣愛織
榎本直　石川仁菜　鈴木遥奈　堀内碧珠
石井綺心　腰塚さやの　山形龍之介　谷口慈
永峯紀明　岡田華　田島湊大　新船翔太
葛西琴望　坂本玲緒　川瀬翔也　鈴木睦乃
宮澤里杏奈　浅野桂資郎　大井花奈恵　水田理久

東向陽道　佐藤ちはる　久米那雄　梅山慎吾
諸貫富祐大　長谷川綾香　笠原大輝　波多野陽介
阿部泰己　新倉北斗　河本匠　西村拓士
小林龍平　芳野友都　金子美祐　太田煌健
浅輪駿太　西岡莉希　大島玲　高島光希
髙橋へザー　小川竜世　安久津悠人　水落莉緒
片岡駿斗　相磯祐香　井餘田華　原宏太
橋野凌　長澤史也　森久輝一　内藤さやか
岡本隼之介　弘田恭太郎　浦田薫　縄田優亜
志賀遥香　本橋紗乃　倉本恭佑　内田康喜
高橋遥佳　宇井碧　加藤遥音　清水真斗
土屋真樹　竹原優人　本谷豪　石川怜
日高朝輝　山内凜
金内真希　高橋陸人　金子学
関祥太　金子紗奈　髙橋大空
飯島正眞　渋谷礼王　前田紗佳
吉田一斎　瀧澤隆太　夏村真菜
遠藤寛大　松永葵　杉山凜
横森絢音　鈴木倫　村井花
小貫菜々子　若林佑真　牟田晴和
鈴木悠介　緒方寿　鈴木洸太
岩﨑帆乃花　犬飼哲生　菅原康介
小幡洋翔　浅賀玲音　内田爽介
太期麻友　桑原智葉　細川恕雄
諸田仁　髙橋海斗　土田桃子
井上太一　永倉由菜　金木花音
常田沙綺　馬渕碧　小澤眞
小林由季　太田穂　斉藤由真
岩谷凜太　石井辰弥　長山実央
皆川結奈　後藤涼真　杉山美柚
生松心響　織田剣士郎　佐々木蘭円
大谷優佳　岩波昭吾　大久保桜

お詫び

先号の社報第77号の初宮詣芳名中、原田皓介様の名字を「原」と誤記しておりました。謹んでお詫び申し上げ訂正させて頂きます。

春の大祭（つつじ祭り）5月3日～5月5日

春の大祭 当日祭〔尚武祭〕（5日）

献饌に続き、奉茶の儀

宮司、ご神前に祝詞を奏上

神楽「浦安舞」を奉奏

参列員、玉串を奉り拝礼

清涼殿にて直会を

菩提樹下で野点茶会

春の大祭 第一日ノ儀　子供の祭〔稚児健康祈願祭〕（3日）

稚児行列には、スカウトや鼓笛隊・役員総代・太鼓山車など多くの供奉が

境内では、連日神賑行事が奉納されています

古武道演武

大宮八幡植木市

方南エイサー踊り

雅太鼓演奏

大　宮　第78号
平成19年 春の大祭号
平成19年5月1日発行
大宮八幡宮社務所
〒168-8570
東京都杉並区大宮2-3-1
電 話 (3311)0105 FAX(3318)6100
Mail：info@ohmiya-hachimangu.or.jp